

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ホームきりう
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	岐阜県高山市桐生町8丁目44番地
記入者名 (管理者)	和歌山 幸子
記入日	平成 20年 8月 13日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作っている		
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をA3版に大きくして居間や事務室、休憩室、記録室などに掲げて実践にとり組んでいる		
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	親睦会や運営推進会議等の機会にはその都度説明したり、ご家族の面会時にも見て理解していただけるよう掲示してある		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方を親睦会に招いたり、散歩などで外へ出る機会を作り時候の挨拶を交わすことで顔見知りになって、日常的な付き合いが出来るよう努めている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敷地内には児童公園や福祉センターがあるため、色々な世代との交流を持ちやすい環境にある。特に近隣の老人会の方はセンターを利用される方が多いので、講座に参加させていただいたり成果の発表を見せていただいたり、その都度挨拶や情報交換など交流が出来る。		地域の方と相談しながら交流を徐々に増やしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	最近福祉センター内に災害用の地下貯水槽やAEDが設置されたので、いずれ地域の方と一緒に救命講習や消火訓練などをやりたいと思っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部の方の目で評価いただくことは、普段何気なく行っていることを気付かせていただく絶好の機会と捉えていて、評価いただいたことは出来ることから改善している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、そこでいただいたご意見や感想を参考にサービス向上につなげるよう努力している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同じ建物の2階に精神障害者グループホームがあるので、市との連携は密に行っている。また、介護保険事業者等連絡調整会議や研修などで行き来する機会も多いので、その都度指導をいただいてサービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を活用しておられる入居者様が見える為、日々のケアの中で必要性を認識しており、研修の機会があれば出来る限り受講するよう心がけている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待のみでなく、言葉による虐待、無視などもそれに当たるということを分かり易く周知するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分納得されてから契約や解約が行われるのが当然との認識の上で行っている。	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	福祉センターやホームの玄関には苦情受付箱を設置し、いつでも苦情を受け付ける体制をとっているが利用実績はない。日常の会話の中からも不満や苦情を察するよう努めて、それを運営に反映させるようにしている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	当ホームはご家族の訪問が多いので、その都度健康状態や現状を報告しご本人にとって一番良い方法が取れるよう話し合っている。また定期的いきりう便り等で近況を報告している。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	福祉センターやホームの玄関には苦情受付箱を設置し、いつでも苦情を受け付ける体制をとっているが利用実績はない。また、第3者の苦情受付機関の存在も玄関などに貼って周知している。会話の中からも苦情や不満がないかその都度確認している。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回職員全体会議を開き個々のケアを周知するとともに、意見や提案を出し合って必要な物から実行に移している。また、気付きノートや職員との日々の会話の中でも意見や提案を聞いて実行している。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	入居者6人と少ない上に職員配置が多く柔軟に対応できている。	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員も高齢になり交代は避けられない時期に来ているが、同行訓練などを行なって徐々に交代するなどの工夫でダメージを必要最小限に抑えるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修には順番に参加したり職責に応じて参加し、全体会議で全員に復命して周知し、職員を育てる取り組みをしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奇数月はグループホーム協議会飛騨支部の定例会議、偶数月はケアマネ勉強会を開き情報交換や勉強会を行い、交流を深めサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のメンタルヘルスケアのためにヒヤリングを行うなど、環境整備に取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各種研修会への参加により、各自の意識高揚に努力している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居期間が長い方ばかりであるが、本人の訴えには十分耳を傾けるよう努めている。特に自室では本音を聞き易いので、ケア提供時ゆっくり話を聴き受け止めるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の不安や求めておられる事に対していつでも相談に乗れる体制をとっている。管理者不在時は他の職員が話をお聞きしている。また、ご家族の訪問時にも、その都度不安や不満がないかお聴きするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	とりあえず今何が必要なのかを、ご家族とともに考え提供しながら、徐々に必要な支援を見極め、ご本人にとって一番良い支援を追加していくよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	試験的に利用していただくことで徐々に慣れていただき、本人の納得の上で入居していただくことにしている。そのためには、ご家族の協力もお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として調理や裁縫、お茶の時間などで教えていただくことは多い。そんな時は素直に感謝や感想を述べることで支えあう関係を築いていけると実感している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「ご本人を中心にご家族、職員が対等の立場でご本人を支える為に一番良いと思われる方法を考えていく」という基本に沿って、その都度ご家族と相談しながら支援を行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人は大事な家族の一員ということを念頭に、些細なことでもご家族に連絡し、職員とご家族が共同で支援する事でよりよい関係が継続できる様支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族の話から情報が得られたら、機会ある毎にホームからも連絡して、親睦会などに参加いただき関係が途切れないよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居期間が長いので、人間関係は自然に出来上がってはいるが、それに捉われず全員が仲良く穏やかに暮せるよう声かけを行うなどの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後もホームに訪問される家族の方などもおられ、関係を続けるよう努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望、意向は把握するよう努めているが、言葉で上手く表現できない時などは、表情やしぐさで推し測ったり職員同士の意見交換やご家族の意見を伺うなどして、本人本位の支援を行えるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や友人、近所の方からの情報で生活歴や暮らし方の把握に努めたり、日々の会話の中からもこれまでの暮らしの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活パターンはほぼ定着しているが、その日の体調に注意し、その人のペースにあった生活が送れるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意見や様子を伺ったり、毎月の全体会議での職員の評価や意見、感想、ご家族の意見などを考慮して介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご本人の希望や、毎月の職員による評価、ご家族の意見などを参考に、概ね3ヶ月に1度介護計画を見直ししているが、急激な体調の変化や入院などの場合は、現状に即して計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケア記録や日報を個別に記録し情報を共有するよう努めている。押印やサインで周知を徹底する工夫もしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族からの訴えや話をよく聞いて、必要な支援を行えるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週1回のボランティアさんの訪問をとっても楽しみにしておられ、大声で合唱されている。年2回の避難訓練の時は近隣の住民や貸し館利用者も参加される。民生委員さんも近所なので親睦会などにも参加され、散歩などにも声かけくださるなど、色々な方のご支援をいただいている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特養へ入居申込済みの方が多いので、ケアマネジャーや事業者と話したりすることもある。ご家族の方から特養で欠員が出た場合に備えて相談をお受けする事もあり、支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護は実際利用されている方がみえるので、その都度連絡をして情報を共有している。地域包括支援センターとは、運営推進会議に参加いただいたり、市役所に伺って相談させてもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診や投薬はかかりつけ医にご家族でお連れしていただいている。急病の場合もご家族に連絡すると受診して下さっている。どちらの場合もホームでの様子を詳しくお知らせしたり、書類にしたりして情報提供して、適切な医療を受けられる支援をしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	この地域には認知症の専門医がみえないため、内科医や心療内科の診察を受けておられる現状ではあるが、疑問がある時は直接医師に指示を仰ぐなどして支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者をよく知る職員の中に看護職員がいるので、少しの異常でも相談して健康管理や医療活用に役立っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に備えて必要な情報を記入した「入院時携行サマリー」を作成し病院関係者との連携を図る努力をしている。また、早期に退院できるよう病院関係者とも連携している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合を想定して特養に入所申込をされている方が殆どだが、ご本人やご家族は「今はここで暮したい」との希望が強い。設備面で最期の看取りまでは難しい点があるので、ケアプラン確認時に重症化したときのことも踏まえて話し合いを行い、方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの設備的な部分で終末期に対応できないことはご家族も了解されており特養に申込を済まされている。ケアプラン確認時や体調の変化があったときなどはその都度今後のことも含めて検討や話し合いを行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えが必要になった場合は、ご本人にのダメージが一番少ない方法をとるために、情報提供や話し合いが必要と痛感している。特に認知症の方は状況の理解が持続しない傾向が強いので、周囲の者が十分配慮する必要があると思っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの尊重は支援の根本にあるとの認識で日々のケアを実践している。全体会議や日報、日々のケアの中で気付いたことはその都度話し合い軌道修正するよう努めている。記録類などは外部の者の目にふれないよう鍵つきの書庫に保管しているが、職員には鍵の置き場所を周知していつでも読めるようにしている。</p>	<p>言葉によるプライバシーの侵害には特に気をつけているが、馴れ合いにならないよう日々の言動には十分気をつけて、気がついたことはその都度注意するなど、今以上徹底を図っていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一日の服装や過ごし方、食事等は自己決定をしていただくよう働きかけているが、難しい時は少し助言して出来るだけ自分で決められるよう支援をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れは大よそ決まっているが強制するものではないので、自分で過ごしたいように過ごしておられる。居間で1日過ごされる方や、自室で好きなことをして過ごされる方など、一人一人のペースに合わせて生活されている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご家族が服装にも気を使われる方が多く、ご本人も毎日好きな服を着ておられる。美容院もそれぞれ行きつけがあり、外泊時に行かれたり職員が送迎したりして定期的に利用しておられる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事はホームの生活の大部分を占めているので、それが楽しいものとなるよう、嫌いなものにはひと手間加えたり胃が弱い方にはお粥にしたりして、楽しく食事が摂れる工夫している。食事作りや後片付けは出来ることを分担しているが、皆さん積極的に参加される。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族や友人が持参された物を自室で食べておられる方や、ご家族との外出時に購入して持ち帰られ方もある。喫煙者はいないし飲酒を希望される方も今のところおられないが、今後希望されたら考慮していく。10時と3時のお茶の時間が楽しいものとなるよう工夫をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全介助の方や1部介助の方、日に3回の清拭が必要な方、貸し館のトイレを使用する方など、一人ひとりのパターンに合わせて介助を行い気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	順番で入浴していただくのが基本だが、体調が悪かったり次の日に受診予定の方、希望がある方なども考慮して入浴をしていただいている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間もまちまちで自室で夜遅くまで起きておられる方や、8時過ぎには寝てしまわれる方、自室と居間を何度も往復する方などまちまちだが、その時々状況にあわせて安心して過ごしていただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが出来ることを見極め、役割を担っていただくことで張り合いや生きる意義を見出していただけよう支援している。また、気晴らしや楽しみごとを味わっていただく為に、季節に合わせて出かけたり社協の行事に参加したりしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人の方は自分でお金を管理されているが、他の方はご家族の希望でお金をお預かりして、必要な物品購入時は一緒に買物に行き、購入後は職員が出納帳に記入して、時々ご家族に確認していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族の訪問が多く一緒に外出されて入浴されたり外食されることもよくある。天候を見ながら中庭や敷地内、近所への散歩を行い外気浴を心がけている。食材の買物に同行していただくこともある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と出かけられる機会も多いので、その都度現在服用されている薬を預けたり体調の説明を行っている。また、季節ごとに全員で出かけたり社協等の催物に参加するよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の聞こえが悪いなどの理由で電話を掛けられる方はいないし、時にかかってもすぐ職員に代られるが、手紙は非常に喜ばれて職員にも見せてくださるので、職員から様子を報告することがある。きりう便りにはご家族への一言を書いていただくよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームは面会時間の制限はないので、ご本人が希望されればいつでも大歓迎でお迎えしている。ご本人の嬉しそうなお顔は職員にとっても励みになっている。自室でゆっくり過ごしていただけるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアは職員全員が理解して実施しているが、立場を変えれば拘束に成り得ることもあるということを肝に銘じ、気を引き締めて取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	個室には鍵はかからない(個室の中からは掛けられる)。ホームの玄関は一般家庭と同じ程度の時間に鍵を掛け、朝は6時頃には開けている。無断で出かける人には黙って後ろをついて行き、途中で声かけをして一緒に帰って来る等の工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各個室にトイレがあり排泄介助などにもプライバシーは守られている。玄関や福祉センターへの通路には音色の違うチャイムが取り付けられてあり所在を確認し安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人によって注意の必要な物が違うので、個人の状況に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回避難訓練を実施する、床に障害物を置かない、薬は職員の目の前で飲んでもらう、体調に合わせて食事の形態を工夫する、玄関や出入り口のチャイムに絶えず気を配るなどそれぞれの状態や場面に合わせた事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年は全員が救命救急の講習を受講した。今年はAEDが福祉センターに設置されたのでいざと言う時は受講経験が生かせると思っている。また、看護職員の指導で定期的に蘇生バッグの使用方法を学んでいる。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防への自動通報システム起動時には近隣の方や職員にも自動的に連絡が入るシステムを導入して、地域の方の協力を得られ易いように工夫した。また、避難訓練には近所の方にも参加していただき、地域としての防災にとり組む努力をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族の訪問時やケアプラン確認時等に現状を説明し、今後起こりうるであろう事態の説明をして、ご家族の意向を伺い対応も確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時や入浴時等、その都度体調確認を行ない、少しでも異常があると思われるときは看護職員に相談し、必要時には受診するなどの対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員の管理の下、服薬の支援を行っている。看護職員は受診時にはご家族に情報を提供し、ご家族との受診後は医師の指示をご家族からお聞きして、全職員に理解できるように周知している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす悪影響を理解しており、身体を動かす工夫や食事には十分注意を払っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとり食事量や水分量がちがうので、その人に合った量や形態で食事を摂っていただいている。また月に1～2回の体重測定を行い栄養状態の把握にも努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防や対応に対する取り決めがあり、使い捨て手袋やマスク、塩素系消毒液などを常備している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必ず手洗い、消毒してから調理にかかり、なるべく熱を通し、出来た物は食べきる、調理器具はよく洗う、食材購入後は出来るだけ早く使うことなどを心がけている。また、職員は月1回の検便や、年1回の環境検査を受けて予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の構造上、どうしても公共施設のように見えてしまい親しみが持ちにくいという弱点はあるが、花を飾ったり福祉センターに案内を出したりして、安心して出入り出来る工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりした工夫している。市街地ではあるが周囲は緑が多い上に敷地が広く南向きの建物なので不快な音や光は殆ど感じない。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥に椅子を置き気のあった仲間と話したり寛いだりする空間を設けた。中庭にはベンチやテーブルがあり、いつでも利用できるようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室は本人に自由に使用していただいているので、使い慣れた物を自宅から持ち込まれたり、趣味のものが飾ってあったりと、ご本人が過ごし易い工夫がされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	敷地が広いうえで各個室にはエアコンが完備され利用者の状況に応じてこまめに調整している。毎日窓を開け換気に努めており、気になる匂いはない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個室には体力に応じて手摺りを設置したり、膝が弱い方にはベッドを使っただけなど、一人ひとりの体力に応じて安全かつ自立した生活が送れる様工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人によってこだわりがありその都度職員に訴えられるが、丁寧に説明すればわかる方ばかりなので、誠実に対応して混乱や失敗を防ぎ安心して自立して暮せるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑がありいつでも楽しめるようになっている。また、各個室の縁側の外には、季節の花を自分で選びプランターに植えて常時楽しめるようにしている。自室の縁側にも家族から届いた花を置いたり、趣味のものを置いたりして活用している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個人の力に合わせた計算ドリルを毎日行い、認知症の進行を少しでも遅らせるよう努めている。また、毎食後、個室にもどり個人に合わせた口腔ケアを行うことで、病気の予防を図るとともに歩くことで筋力の低下予防も図っている。入居者で2名の方はホーム開設時から入居されており、介護度も1～2のまま変更がなく元気に暮しておられる。6人の入居者に対して平日は職員が3～4人確保されており、入居者のその日の体調や状態に合わせて、きめ細かいマンツーマンの個別ケアが提供でき、入居者や職員の心にもゆとりが生まれている。ご家族と職員が同じ立場で、入居者にとって一番いい方法を相談しながら支援をしている。